

## 医者が処方した『笑い茸』

吹春 公子

日本の古典芸能である狂言に「茸」があるくらいだから、きっと落語にもあるのではないかと思っていたところ、本当に存在した。とはいってもCDの録音で、立川談志演じる『笑い茸』。平成11年1月12日、国立劇場演芸場 談志ひとり会で演じられたものの生録、いわばライブのCDである。それゆえ、少々聞きにくいところもあるが、臨場感がある。

——うれしかったのは『笑い茸』を演ってくれたことだ。二代目三遊亭金馬、お爺さんの五代目三升家小勝の速記が残っているので、『笑い茸』という噺があることは知っていた。しかし演り手が絶えてしまったため、中学生の頃から寄席に通いはじめたにもかかわらず、一度も聞いたことがなく「もう聞けないだろう」とあきらめかけていたからである。ここに収めた音がそれで、六十二歳になってはじめて聞いた『笑い茸』だ。

(川戸貞吉・ジャケット解説より抜粋)

解説者がこのように語っているのだから、かなりのレアものである。生を聞きたいといってもやはりなかなかお目にかかれなさそうなので、ご興味のあるかたはぜひどうぞ。



『立川談志 プレミアムベスト 落語CD集「風呂敷」「笑い茸～胡椒のくやみ』

発売元：榊竹書房、販売元：コロムビアミュージックエンタテイメント(株)、COCJ-35192、定価 2000 (税込)